会員便り

氷見市農村婦人の貧血調査について

氷見市農協婦人部　中山登美子

目　的

婦人の貧血については、全国的に関心が持たれておりますが、氷見市農協婦人部では、最近のますます高くなる共稼ぎや農繁期の労働過重等、市内の農村婦人の健康管理についていろいろ話し合い、労働婦人の貧血の実態を調査することによりその結果から原因追求や対策等、健康生活向上の指標を得られればと思いこの調査に取りくみました。そこで農協婦人部では、保健所に実施依頼をしましたが、内容規模等大きな問題であるとして、金沢大学公衆衛生教室に援助をお願いして実施について色々指示を受け協議した結果、貧血の実態調査を昭和50年度、51年度の2ヵ年経続して実施することになりました。

実　施

昭和50年度の実施については、氷見市の農村地区より20才より50才までの 400人程度を選び、農繁期直後の5月24日と5月31日の2回に分けて、氷見市農業会館で実施しました。まず調査を1次と2次に分けて、1次は、

①食生活、労働に関するアンケート調査。

②一般的血液検査。

③尿検査を全員実施。

以上1次の血液検査により、貧血と疑わしめるものを即時2次調査の対象者として、血液検査（採血）を実施し、資料を金沢大学へ送付しました。調査結果は、1次受診者 418名で、その内 165名が2次受診者となり、1次、2次併せて異常なしが 320名、貧血と診断された者98名、貧血者中、医療を要すると診断された者20名であった。（2次対象者は、血色素量12g/100mℓ以下）

通　知

そこで、これらの調査結果をもとに、保健所では、大学と連絡のうえ、各受診者毎に成績と指示又は簡単な説明を加えて、個人通知をし、一方婦人部では大学より講師を招じ、貧血の実態調査結果と、その対策について、講演会を実施した。

以上、昭和50年度の事業概要を述べましたが、昭和51年度は保健所や大学と協議して、50年度の成績をもとに、更に貧血者の追跡調査や、これに併せて市内の地域毎の飲料水の検査等を計画し、実態の解明を図りたく、氷見市の農村婦人の健康生活向上の資料にしたいと考えています。